

議事録 概要
第8回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：建て替えがせまる、宝塚市立病院の未来について
日時：令和7年8月28日（木） 午後6時30分～午後8時30分 場所：西公民館 ホール 参加者：40名 市出席者：森市長、企画経営部市立病院経営改革担当－羽田部長、君田次長、黒木課長 市立病院経営統括部－岡田部長
《市長のテーマ説明》 1 はじめに ・今回のテーマは 「市立病院とその周辺機能のあり方」 ・医師として医療・福祉へ深い関心がある。 ・市立病院の重要性とその課題に焦点を当てる。 2 宝塚市立病院の現状と課題 ・築41年で、施設内の設備（配管、ボイラー等）の老朽化が進行中。 ・31の診療科があり、総合病院としての要件は整っている。 ・救急車を受け入れる役割を果たし、24時間365日対応している。 ・がん拠点病院。兵庫県の指定を受けており、がん診療に強みを持つ。 ・赤字経営が課題であるが、近年改善傾向にあり、宝塚市立病院の経営状況は他の市立病院と比較して悪くはない。 3 医療・福祉・介護・保健の連携の必要性 ・高齢化社会への対応として、医療・福祉・介護・保健の分野での連携が不可欠。 ・市が保有する医療施設や、民間、他市町との連携も視野に入れる。 4 周辺施設との連携 ・国民健康保険診療所 西谷地域で唯一の市運営の診療所。遠隔診療の活用を視野に。 ・健康センター 予防医療を重視した施設で、治療よりも公衆衛生や予防に重点を置いた再編が必要。 ・ステップハウス 高齢者の退院後、在宅復帰を目指す中間施設として機能。 ・子ども発達支援センター 障害のある子どもへの支援を行う施設。医療・福祉・教育の連携について検討中。

5 市立病院の建て替え計画

- ・現在地での建て替えを基本方針として、第一駐車場に新病院を建設予定。
- ・物理的な配置や役割分担を再検討し、病院の機能を最適化する。
- ・病院は24時間体制であるため、改修しながらの運用は難しい。
- ・一部の新しい棟（がんセンターなど）は活用継続を想定。
- ・7年スパンでの長期的な事業として、建築と中身（機能）の再設計が進行中。

6 病院経営の状況

- ・令和6年度の決算見込み（正式発表は市議会の審議を経た秋予定）。総収益は約135億円で総支出は約137億円。
- ・民営化の提案があるが、公立病院の役割を考えると簡単ではない。

7 今後の進め方

- ・新病院は「救急」「がん治療」「高齢者医療」を強化し、地域医療の中核を担う予定。
- ・周辺施設と連携し、地域全体で医療・福祉・介護・保健の一体的なシステム構築を目指す。
- ・市民・専門家・関係者を交えた懇話会を設置し、方向性を検討。

8 まとめ

- ・市立病院は引き続き市民にとって重要な役割を果たす。
- ・市民との対話を重視し、長期的に地域医療を支える病院を目指す。

《対話》

1 参加者【社会的処方について】

- ・生活習慣病や健康に関しては、病院に通うことは大事だが、普段の食事や運動も重要であるが、実際には実行が難しい。社会的処方（地域の運動プログラムなど）を病院と連携して進める必要がある。
- ・現在、病院と地域活動をつなげる仕組みが足りていないため、宝塚市でそうした仕組みを実践してほしい。

➡ 市長

- ・とても大事だと感じる。社会的処方は、医療だけでなく生活環境を整えて健康を促進する方法。地域全体で健康を支える仕組み作りが重要であるため、医療と地域活動の連携を進めていきたい。

2 参加者【対話ひろばの継続について】

- ・市長との対話ひろばが続くことを希望し、250億円の寄付を活用した医療の話が非常に

良いと感じた。今後、具体的な進展（例えば 450 億円の必要経費）や今後の方針について対話ひろばで聞きたい。

➡ 市長

- ・市民病院でがん治療を希望する場合、診療後に紹介を受ける形になる。
- ・対話ひろばは今後も続き、月に 4 回開催。今後のテーマは未定だが、医療関連のテーマも引き続き取り上げる可能性もある。
- ・250 億円の寄付は大変貴重で、今後の病院建設に有効に活用していく。

3 参加者【医療、福祉、介護の充実、介護保険制度について】

- ・宝塚市が「心安らかに最期を迎える場所」であってほしい。文化芸術の町として、充実した最期を迎えるために医療・福祉・介護の充実を求めたい。
- ・在宅医療の重要性を認識しているが、介護保険が厳しい状況（報酬引き下げ、事業所の閉鎖）で、今後の介護保険制度や高齢者の問題について心配。

➡ 市長

- ・医療や福祉の役割が、長寿を延ばすだけでなく、充実した生活を送る方向にシフトしている。
- ・文化芸術の要素を医療や福祉に取り入れ（ソフト面）、豊かな最期を迎えるための支援を市民の皆さんにご意見をいただきながら考えていきたい。
- ・介護保険の問題は国レベルで解決すべき課題であり、市としては支援できる部分もあるが、根本的な解決は国の議論に依存している。
- ・介護報酬や人手不足の問題は深刻で、現場の人材不足が課題。市町でお手伝いできる可能性もあると思う。

4 参加者【安心して生きることができる宝塚市、病院の設計について】

- ・高齢者の単身世帯が増加しており、そうした人々が安心して生き、安心して最期を迎えられる社会を目指してほしい。
- ・介護保険の問題を含む、今後の社会構造に対応したサービス提供をお願いしたい。
- ・病院建設については、規模や有名企業にこだわらず、ヒューマンスケールで利用者を本当に考えた設計を重視してほしい。

➡ 市長

- ・高齢者の一人暮らしが増えている中で、家族に頼らない社会が進んでおり、介護保険制度もその対応を進めているが、実際の生活に対し遅れが出ている。
- ・社会は心配せずに暮らせる社会に向かっているが、様々な側面を考えていかないといけない。公でできるところは公で、点検しながら進めていきたい。

➡ 担当職員

- ・新しい病院の建設は現在、基本計画を策定している段階で、発注方法や設計事務所の選

定を検討中。設計には利用者の立場を考慮し、使いやすい病院を目指す。

➡ 市長

- ・新しい病院には市民にとって重要な機能をしっかりと持たせるため、設計・選定プロセスを進めている。選定においては、競争は適切に行い、福祉と市民のニーズを重視した病院づくりを目指す。誰が見ても後ろ指さされないように進める。

5 参加者【寄付金の活用方法について】

- ・250 億円の寄付を、宝塚市の負担を減らすためではなく、夢の病院を作るために使うべき。具体的には、カーボンニュートラルな病院を目指し、ランニングコストを抑え、維持費のかからない設備（空調や電力、水道など）を導入することを提案したい。

➡ 市長

- ・大事な視点。どう実現できるのか考えたいが、維持も費用がかかるため、総合的に考え、寄付者の気持ちも尊重し、知恵をしぼって進めていきたい。

6 参加者【持続可能なエネルギーについて】

- ・病院建設時に持続可能なエネルギー設計を採用したり、災害時に自前でエネルギー供給できるシステムを構築できないか。
- ・市民が再生可能エネルギー基金に寄付し、病院建設に貢献できないか。
- ・市全体で省エネと節電の意識を高め、エネルギーのビジョンを共有。

➡ 市長

- ・再生可能エネルギーの活用は病院だけでなく、全市的に考えてもご意見のとおりと思う。市全体のエネルギー戦略を考慮し、前向きに進める。
- ・一例として「リバースオークション」を導入し、市の公共施設で再生可能エネルギーを安価に調達予定。
- ・新しいゴミ処理場は発電機能を強化し、エネルギー効率を改善する。

7 参加者【診療科、病床数、寄付金について】

- ・市民病院の産科がなくなり、小児科が縮小、市民として懸念している。
- ・新病院では病床数が減少すると聞いているが、メリット・デメリットが聞きたい。
- ・緩和ケア病棟は必要ではないか。
- ・いただいた 250 億円の寄付について、条件が厳しすぎるのではないか。

➡ 市長

- ・過去の市立伊丹病院との連携により、市立病院の診療科としては、産科は市立伊丹病院、婦人科は宝塚市立病院と役割分担している。理由として、本市には大きな産科が 3 つあり、市外の方も多く出産されている状況がある。
- ・小児科については、軽視するつもりはなく、充実していく方針である。

- ・床数減少は人口減少を反映したもので、適正規模を保つための調整。近隣の市町のように大規模な病院に集約することには効率化や医療の質の向上（メリット）があるが、すべてを一箇所にまとめてしまうと、アクセスが悪くなり、住民にとって利用しづらくなる（デメリット）という課題もある。宝塚のような広い地域では、適度な集約と地域密着のバランスが必要とされる。
- ・緩和ケア病棟については、急性期病院としては収支を合わせるためには厳しく難しい。対話ひろばで多くの同様の意見をいただいている。何か策があるかもしれないので、宿題としたい。
- ・寄付金の条件は必要なものとして、厳しいものではないと考えている。

8 参加者【市立病院の重要性、寄付金制度の提案について】

- ・対話ひろばに参加して、市立病院の重要性について、反対派に対して説明できるようになった。
- ・自身の入院経験から、市立病院が近くにあることのありがたさを実感する。また、特にがんセンターでの放射線治療の際の医師、看護師等に感謝している。
- ・病院建設のための寄付（例えば一口いくらなど）を市民に呼びかけてはどうか。

➡ 市長

- ・市立病院の重要性について引き続き説明し、市民との対話を続けていきたい。
- ・病院のスタッフはよく頑張っている。今後も改善に向けて市民の意見を反映させる。
- ・市民とのつながりを大切に、寄付活動についても市民の気持ちが伝わる形で考えていきたい。

9 参加者【スピリチュアルケアについて】

- ・市民病院で最近チャプレンをあまり見かけなくなり、残念に思っている。自身はスピリチュアルケアワーカーを学んでおり、福祉や医療の隙間を埋めるために重要だと感じている。

➡ 市長

- ・研修で教えてもらった経験もあり、思い入れが深い分野。
- ・現在、緩和ケアが外来で提供されるようになり、以前のホスピス入院中心の考え方から変わってきた。緩和ケアについては、多くの方からご意見をいただいております、提供方法については宿題とさせてほしい。
- ・個人の選択としては問題ないが、公立病院として宗教的な配慮は難しい。

10 参加者【障害者にとって使いやすい病院について】

- ・障害のある家族を支援している立場として、寄付者の「障害者にとって使いやすい病院を」という意見に感謝。

- ・市内で精神疾患を抱える人が増えており、市民病院で心療内科や精神科が安心して受けられるように改善を求めたい。

➡ 市長

- ・多くの方から同様の意見をいただいている。市立病院には常勤の心療内科の医師がいるが、精神科の診療に関しては、単独の精神科病棟や専門病院と違いがあるため、難しさがあるが、精神的なサポートをできないかなど考えたい。

11 参加者【障害児への支援について】

- ・自身の経験から、障害児への支援において、学校との連携が不足していると感じ、教育機関との協力を強化してほしい。特に、発達障害を持つ子どもたちが学校で適切にサポートされていない。

➡ 市長

- ・市は発達特性を持つ子どもたちへの支援に注力しており、幼稚園は発達支援が充実しているが、学校に進学すると対応に差があると感じている。
- ・市内の学校では支援の質にばらつきがあり、教育現場での一貫した支援が求められていることを認識している。
- ・スクールソーシャルワーカーやカウンセラーが充実しているが、個々の学校や先生によって対応が異なるため、公教育の改善に向けて取り組んでいきたい。また、発達障害児への支援をさらに強化し、学校教育の質を向上させる方向で進めていきたい。

12 参加者【相談窓口、話し合いの場について】

- ・市民からの多様な相談に応えるために、より充実した相談窓口が必要だと考え、市民の知恵を活かした話し合いの場を設けることを提案したい。
- ・介護や老人ケア、健康管理、孤独な高齢者へのサポートなど、個別のニーズに合わせた対応を市民と一緒に進めてはどうか。

➡ 事務局職員

- ・市民相談課では、様々な相談を受け付けており、相談窓口、話し合いの場について市民に有益な情報を提供できるよう努めている。また、困りごとなどに対しては、法律相談や建築相談、家庭問題などを提供している。
- ・市役所職員が市民の皆様のところへ行って事業や制度などを分かりやすく説明する「ふれあいトーク（出前講座）」もあるため、ぜひご利用願いたい。

➡ 市長

- ・市役所は、市民と近い存在として、様々な相談を受けており、市民の意見を政策に反映できるよう努めているほか、市民の皆さんが参加できるイベントや意見交換の機会を提供しており、広報などで告知している。
- ・市民が集まり、意見を出し合うことによって、新しい政策や市政の改善に役立てられて

いる。

- ・何か提案や要望があれば、気軽に市役所に相談してほしい。市役所職員と一緒に政策作りを進めていきたい。